

令和2年度学校経営評価アンケートの結果について

「保護者アンケート」「生徒アンケート」「教職員アンケート」「学校評議員からの評価」を行いました。今回頂いた意見、要望をこれからの学校運営に生かし、保護者や地域の方々と協力しながら、よりよい教育活動を進めていきたいと考えています。今後ともご協力をお願いします。

【保護者アンケート 考察】

○肯定的な回答が多かったもの

- ・「あてはまる」「おおよそあてはまる」の回答が80%以上のものが7項目ある。
- ・その中でも特に肯定的な回答が以下の5項目である。

「3 通知表の評価は適切に行われている。」	88%
「7 基本的な生活習慣を身につけさせ、社会性を育てている。」	88%
「16 学校は、服装や礼儀への適切な指導を行っている。」	87%
「21 お子さんは楽しく学校生活を送れている。」	86%
「18 お子さんと教師との関係は良い。」	85%

○肯定的な回答が比較的低かったもの

- ・「あてはまる」「おおよそあてはまる」の回答が75%以下のものが17項目ある。
- ・その中でも特に肯定的でない回答が以下の4項目である。

「12 授業では、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）を取り入れた学習を行っていくようになることを知っている。」	29%
「6 特別に支援の必要な生徒など一人ひとりを大切にしたい指導を行っている。」	57%
「5 必要な進路指導の情報を生徒や保護者に発信している。」	58%
「15 授業参観日・保護者会等の回数は適切である。」	61%

○増加、減少の著しかったもの

「10 家庭でも、予習または復習などの習慣が付くような手立てを行っている。」	+14%
「2 学校は、家庭学習の習慣が付くような取り組みを行っている。」	+12%
「15 授業参観日・保護者会等の回数は適切である。」	-25%
「12 授業では、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）を取り入れた学習を行っていくようになることを知っている。」	-20%
「学校行事は、生徒が主体となり充実した活動になっている。」	-15%

<考察>

- ・保護者の方は、生徒は教師との関係も良好で、礼節を弁え楽しく生活していると受け止めていることがわかる。更に家庭学習については家庭、学校の双方から支援する環境が整いつつあり、昨年度から改善したことが読み取れる。
- ・コロナ対応の影響も手伝い、保護者の方が生徒の学校での様子を直接見たり、学校（先生方）と話し合う機会が殆ど持てなかったことは否めない。次年度の課題の一つである。

【生徒アンケート 考察】

○肯定的な回答が多かったもの

・「あてはまる」「おおよそあてはまる」の回答が80%以上のものが23項目ある。これは昨年と同様の結果となっている。

・その中でも特に肯定的な回答が以下の9項目である。

「31 交通ルールを守り，安全に登下校をしている。」 96%

「28 周囲の友人に親切にしている。」 95%

「6 学習用具（教科書，ノート，筆記用具等）は忘れないで持っていく。」 95%

「23 施設や設備は，危険がないように整備・管理されている。」 95%

「25 先生方から基本的な生活習慣や社会的なルールやマナーの指導が行われている。」 94%

「11 人の話をよく聴くようにしている。」 94%

「19 服装や身だしなみ（名札忘れ，靴のかかと踏み，ハンカチ等）は整っている。」 91%

「10 時間を守って生活をしている。」 90%

「24 校内の掲示物は分かりやすく，よく工夫されている。」 90%

○肯定的な回答が比較的低かったもの

・「あてはまる」「おおよそあてはまる」の回答が75%以下のものが9項目ある。

・その中でも特に肯定的でない回答が以下の4項目である。

「33 これからは，新しい学び方（自ら学習を深めたり，対話を重視すること等）に移行していることを知っている。」 36%

「16 自分の活動について，周囲から信頼されていると感じる。」 61%

「17 自分の活動について，先生から信頼されていると感じる。」 63%

「30 悩みや困ったことがあるときは，先生に相談することができる。」 65%

○増加、減少の著しかったもの

「8 家庭学習の習慣がついている。」 +11%

「15 先生は生徒をかたよらず同じように見て，大切にしてくれている。」 +8%

「33 これからは，新しい学び方（自ら学習を深めたり，対話を重視すること等）に移行していることを知っている。」 -36%

「9 自分の意見をきちんと言える。」 -7%

<考察>

・全体的な傾向としては、おおむね肯定的に回答していると共に、生徒の多くは、規律ある学校生活を送ることができていることが伺える。

・学習についての意識は年々高まってきており、保護者のアンケート結果と同様に生徒たち自身も家庭学習の習慣化が図れているという回答が伸びている。家庭、学校双方の連携がうまく取れている成果と捉えたい。今後自学の定着に向け更に取り組んでいきたい。

・周囲から信頼されている、先生方から信頼されていると感じるような活動場面、周りか

らの声で実感できるような場面をどのようにしてつくっていくか、自己肯定感を如何に高めていくかがここ数年にみられる本校の課題の一つである。

【教職員アンケート 考察】

- ・項目によって差はあるものの、職員はおおむね学校教育目標が達成できていると感じている。
- ・学校教育目標の具現化に向けて、学年・学級の目標を明確にして指導にあたっている。
- ・学習面については、基礎的・基本的事項を明確に授業を進めている。一方、学習に対する生徒の興味・関心を高め、生徒の主体的な学びにつながる授業改善については、更に研究を深めていく必要がある。
- ・生徒指導面については、生徒のあいさつや時間を守ることについては肯定的な評価が多くなってきた。また、生徒の生活アンケートの「先生は生徒をかたよらず同じように見て、大切にしてくれている。」の項目が昨年度より8%増加し89%の回答からも一人ひとりに寄り添う、一人ひとりを大切にする指導が展開されていることが伺える。
- ・学校行事に関しては、コロナ感染予防の視点からも、工夫改善を行っているとの回答が多かった。また、生徒の生活アンケートの「学校行事に積極的に参加している。」との回答が87%となっている。一方、保護者の評価は、「学校行事は、生徒が主体となり充実した活動になっている。」が75%とややギャップがあることが読み取れる。保護者への周知等について見直しが必要と考える。
- ・昨年度と同じように「学校は、学習の遅れがちな生徒への対策を、全体的な課題として取り組んでいますか。」の項目が52%の低い回答となった。生徒の基礎的、基本的な学習の定着について、より丁寧な支援を具体的にどのように行っていくかが、本校の重要な課題の一つである。
- ・コロナ対応の関係から、地域との連携、保護者との交流そして、主体的・対話的で深い学びについては、低調になってしまったことは否めない。

【学校評議員等からの評価】

- ・保護者からの意見・要望・質問に対して一つ一つ丁寧な回答がされており、誠意を感じます。一方、保護者の理解不足や誤解があることがわかります。必要に応じて生徒・保護者や教職員へ次回のアンケートに加える、個別アンケートを行う等傾向を確認することも良いと思います。
- ・生徒、保護者の方は、学校（教職員）との信頼関係が良好であると伺えます。
- ・今回は、新型コロナウイルスで教職員、生徒、保護者の方々は困惑状態であることが伺えます。その中で家庭学習の習慣化が図られているようです。一方で授業参観、保護者会等の回数が少ないことに保護者の方々は不安もあったように思われます。
- ・アクティブラーニングについて：生徒・保護者とも理解度が低く、先生方もこの取り組みに苦慮されているのではないのでしょうか。生徒の自主性・主体性を伸ばすとともに協

調性を育むために有効な方法と思いますので、力を入れて取り組んでいただければと思います。

- ・可能であれば、ギャップ分析（生徒・保護者・教職員の立場のちがいによる意識の差）や変動分析（過去の調査結果との比較）についてご検討をお願いいたします。
- ・地域の人材の活用について：コロナ禍で外部の人の学校への立ち入りは厳しい状況ですが、可能な状態に戻ったら、課外活動を中心に地域の人や団体を利用いただければと思います。大人が人生で得た雑学や技術は、日常生活で役に立つことが多いと思います。